Title	アシレー嬢著 比公の社会政策
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.6 (1914. 7) ,p.739(113)- 740(114)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140701-0113

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

人物にして、彼の自耳義に於ける大工業の創始者たる「ジョン、コックリル」の如き元來、一職工に過ぎざりしものなりとす、而して此企業の傾向の極端に馳せしものは、一方には社會主義あり、一方には企業上の合同又は聯合と化するに至れり。

之れを要するに、資本主義なるものは決して直線的の發達をなせしものにあらず、其間、幾多の恐慌によりて幾多異なるたる刺激によりて切斷せられたるものなりとす、即ち巡同的商業の自由なる發展は都市經濟によりて其終りを告ぐると共に、文藝復興期の個人的活動は一變して重商主義の時代となり、最後に自由主義の時代を繼續せしものは社會政策の時代たる現時の状態となす。(完)

謹告

本誌八月號は都合に依り休刊
仕候 追而九月號は例月の通り發行致し十月號は特に紙數を増加致す豫定に有之候

批評と紹介

比公の社會政策

(Annie Ashley, The social policy of Bismarck)

比公は世界史を飾れる人傑なるを以て、其生涯を記述し、評論せるもの少からず、就中、「レント」の如き「マークス」の如き、最近にては「ホフマン」の如きあり、遮莫、此偉人の社會政策方面に關す消息を傳ふるものに至つては、吾人の不肖なる「ブロトニツ」(G. Brodnitz, Bismarcks nationalökonomische Anschauungen) 及最近「シュナイダー」(O. Schneider, Bismarcks Finanz u. Wirtschaftspolitik) 以外、多く見る處あらず、今、本書を得たるは一般の讀書界殊に英國の讀書界にとりて悦ばるゝ處なる可し、而して本書の價値に至りては、其卷頭を飾れる「シ

ユモラー」の言に、「余が學友「アシレー」教授は余に求むるに其令嬢の著たる「比公の社會政策」の緒言を認む可きを以てせり、余は悦んで其需に應ずると共に、非常なる満足をも以て此書を讀了せり、余は衷心、英國の讀者が此著によりて比公の性格及獨逸保險法案の起源及本質に就きて明白なる理解を得るを信するものなり、勿論、鐵血宰相及彼が政策に關する批判と英、獨兩國に於ける保險法案の比較に就きて多少著者自らの主觀的色彩を混することは、勢、止むを得ざる處なるも、然かも余は是等の所論に就きては非常なる興味を以て讀下せり、蓋、余の見る處の全く、著者と相同じからざるは、兩者の見地の相異なるによるのみ」と、而して、著者が比公の社會政策に下したる結論としては、保險法案によりて、當時獨逸の人心に蟠りし不滿不平の聲を静めんとする比公の希望は充分達せられざりしと雖、然かも他の一面に於て國民生活

を一般に向上せしめんとする努力は單に獨逸のみならず、自餘の歐洲諸國に於ても著しき効果を齎せしものなりとなせり、要するに本書は獨逸に於ける國家社會主義の性質及發達、比公の性格及社會的見地、其他、獨逸に於ける勞働保險發達の歴史、之れが英國法案との比較等を簡略に知らんとする徒にとりて好都合の參考書たる可し。(阿部生)

流行に關する國民經濟的觀察

(W. Troeltsch, Volkswirtschaftliche Betrachtungen über die Mode)

獨逸工業界最近の傾向としては、單に低廉なる品物を廣く販賣して、其「數量」的發達を促すを以て足りとせず、更に進んで「質」的發達を計らんとする點にありと信ず、而して現時獨逸に於て「流行」問題が屢々國民經濟學研究の對象た

るに至りしことは此間の消息を語れるものにあらざるか、本著は著者が千九百十二年十月十三日「マールブルグ」大學總長就職の演説を公にせしものにして、先づ社會的慾望の產物たる「流行」其者の意義を明にし、更に需要と流行、小賣商と流行、生産上、勞働上、物價上に於ける流行の影響等を論じ、其結論として「流行」なるものは現時の消費、生産の諸方面に互りて、之れが最中心をなすものにして經濟生活の重要な現象として、彼は一種の「Jauskopf」なり、若、此方面の經營にして其宜しきを得ば、需要は大となり、勞働者は従つて其業務を求むるを得べしと、要するに本書は僅かに六十六頁の小冊子に過ぎずと雖、尙ほ「ノイブルガー」の著(O. Neuburger, Die Mode, Wesen, Entstehen u. Wirken)と共に此方面の研究者にとりて好材料たる可し。(阿部生)

The Influence of the Gold Supply on Prices and Profits

By Sir David Barbour

千九百十三年倫敦マクミラン發行
中版一〇四頁東京賣價金一圓七十五錢

本書の著者バーバー氏は印度の貨幣制度に精通せる貨幣論の大家なり。氏は曩に「The Standard of Value (1912)」を著し貨幣數量説を論據として貨幣購買力高下の理を説述して印度幣制に論及せしが、本書に於ては貨幣數量説其物の説明に重きを置き印度幣制と該説との關係に論及するを避けたり。概して之を論ずれば、本書は「The Standard of Value」よりも論旨明快にして、記述も亦簡明なりと謂ふを得るが如し。本書論旨の中心點は蓋し左の一節に在りと謂ふを得べし。(四七頁)

『貨幣數量説は左の如く言表はすを得。』

他の條件にして變動せざる限りは、物價平準は貨幣の數量に比例す。
輒近此學説を非難する者を生じたと、予は未だ一顧を値ひする反對論を見たることなし。此學説に關する論争は打切とするを可とす。』

此貨幣數量説に對するバーバー氏の説明は大體に於てフィッシャー氏 (Irving Fisher: The Purchasing Power of Money, 1911) の解説と一致せるも、其數理的解説に用ひたる方程式並に信用と物價との關係の説明に於てバーバー氏はフィッシャー氏とは異なる方法を採れり。即ちバーバー氏の用ゐたる方程式は左の如し。(五十六頁)

$$P = Q \times \frac{E}{W}$$

P は物價平準、Q は貨幣の數量、E は貨幣の効率、W は貨物取引高を表示す。貨幣の効率と